

平成 26 年度事業総括

理事長 川 島 典 之

平成 26 年度は、中期 5 年事業計画に向けての 4 年目です。27 年度は中期計画作成の年です。

今年度は、東日本大震災支援の 2 回目として、愛知県に避難してきている親子を対象に、犬山の子どもたちとの交流の機会を 11 月上旬に開催できました。昨年度より多くの親子が来てくれました。嬉しいことです。

また、市民活動交流フォーラムでは、「犬山の NPO・ボランティア活動」をテーマに、パネルディスカッションと講演会を行いました。ボランティアに関心を持って見える人たちにボランティアの仕方、関わり方がいろいろあることを学びました。地域コミュニティも 6 小学校区に誕生しています。



26 年度も充実した年でした。会員、理事の皆さんのご支援、ご協力の意識に心から感謝申し上げます。理事の皆さんとともに、なお一層地道に中間支援機能を高めていきたいものです。

- 1 東日本大震災支援の一つとして、11 月 1 日（土）～2 日（日）に犬山の子どもと愛知県への被災者親子の交流の場をつくろうと実行委員会を作り、活動プログラム 5 個、夜の交流、熱気球搭乗、防災教室を行い、愛知県への避難者親子 26 人にひとときの安らぎの場を提供できたことは、とても嬉しいことでした。
- 2 「犬山子ども大学」は、20 講座 420 人の子どもが参加して、年間延べ 210 日活動し、60 人のボランティア指導員が活躍してくれました。
- 3 馬瀬夏季交流合宿は、8 年目で 25 人の子どもが参加。さらにプログラムが輝きを見せ大成功。4 年目の「冬の交流合宿」は、23 人の子どもと愛知淑徳大学の学生 5 人、スタッフ 10 人の大所帯でしたが、子ども達は学生ボランティアと仲良くなり、イグルー作り、カンジキはいての山登り、雪あそび、見事にボランティアの助けを借りて完遂し、雪あそびは大人気で、多くの感動を体験しました。
- 4 「市民活動交流フォーラム」では、「犬山の NPO・ボランティア活動」がテーマです。
第 1 部「犬山の NPO・ボランティア活動」で、犬山市レクリエーション指導者クラブ、郷瀬川清流会、犬山要約筆記サークルともだち、城東小学校区コミュニティ推進協議会、犬山西地区コミュニティ推進協議会、NPO 法人犬山しみんていの会の活動状況、他団体との連携の有無、課題等について議論し、榎田勝利愛知淑徳大学教授のアドバイスをいただきました。
第 2 部「講演」では「ボランティア活動から得られるもの…」でお話をいただき、わかりやすいお話だったと評判でした。

〔Ⅰ〕普及啓発・情報提供事業

「しみんてい」の周知、普及のために、犬山市内及び愛知県下の自治体・NPO 向けにペーパーによる広報活動を行うと共に、ホームページの充実、「しみんてい」内の掲示板、各種チラシの掲示の充実を図ってきました。

さらに、自治体、地域コミュニティ組織及びNPOへ指導者を派遣したり、各会合へ参加するなどして「しみんてい」の普及啓発に努めています。

〔Ⅰ〕 ニュースの発行

隔月に発行し、配布先は愛知県下の自治体をはじめ NPO 向けに 1, 000 部配布している。

- ① 発行回数 6 回（70 号～75 号）、臨時号：木曾川源流 夏・冬の交流合宿号
- ② 発行部数 1,000 部（毎回）
- ③ 配布先 会員、愛知県下の自治体、主な NPO へ配布。

〔Ⅱ〕 ネットワーク運営事業

- ① ホームページの充実
- ② 催事カレンダー（犬山市内の行政・NPO の活動カレンダー）の作成
- ③ 当会所属の団体の活動紹介を順次掲載しています。

〔Ⅲ〕 各種 NPO への掲示板及びポスター掲示場所の運営

〔Ⅳ〕 普及啓発活動

① 協働事業による PR

犬山城春祭り、秋祭り、焼酎祭り、ビール祭り、ワインまつり、あったか鍋・地酒祭り、「城下町 100 円（縁）市」、「おひな様まつり」、犬山市産業振興祭、集まれ犬山っ子、塔野地区の集い、楽田地区コミュニティ推進協議会、犬山市青少年健全育成市民会議「オアシス運動」、多文化共生シンポジウム、新しく犬山市ボランティア連絡協議会主催の「ボランティアのつどい」など 15 件

② 市並びに各種団体への講師及び委員派遣

各種委員会への委員派遣・・・各種委員会への委員派遣・・・コミュニティ政策学会、大口町 NPO 促進委員会、市民フォーラム 21 NPO センター、ボランティアネイバース、犬山市男女共同参画推進協議会、犬山市男女共同参画市民会議、犬山市青少年問題協議会、犬山社会教育審議会、犬山里山学センター運営協議会、市民展企画委員会、犬山城下町まちづくり協会、古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク、犬山まつり実行委員会、13 件

③ 各種会合への参加

犬山市交礼会、犬山まつり実行委員会、城下町まちづくり協会 4 件、あんきにくらそう会総会、犬山甲冑制作同好会総会、市民フォーラム 21 総会、理事会、楽田地区コミュニティ推進協会総会、楽田小、愛フェス実行委員会、第 6 回 Make a CHANGE Day 実行委員会、城下町おひなさま祭り実行委員会など、20 件

〔Ⅲ〕 相談・助言事業

〔1〕 概 要

「しみんてい」の運営及び「犬山しみんていの会」の事業実施に伴うコーディネート、団体・グループ、個人への相談・アドバイスをしています。

〔2〕 具体的な活動

ア、コーディネート

人材育成事業、人材交流・ネットワーク促進事業を通じ、また各種相談の中からコーディネートが必要なものについては積極的に対応しています。「子ども大学」「木曾川源流夏・冬の交流合宿」「東日本大震災避難者親子と犬山の子ども交流事業」「市民活動交流フォーラム」も大きなものです。

イ、相談に関する業務

① 市民活動相談

- ★ NPO法人に関すること：3件
- ★ 活動に関すること：10件
- ★ 市町職員への相談・アドバイス：7件

② ボランティアにかかわる相談・・・・・・・・6件

③ 各市町村職員、市民活動団体の視察及受け入れ

扶桑町、津島市役所、扶桑北中学校、3件

ウ、犬山市民活動支援に関する条例に関わる相談・アドバイス

- ① 助成金に関するもの：13件
- ② 登録に関するもの：7件

〔Ⅲ〕人材交流・ネットワーク事業

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金助成事業

〔1〕東日本被災者親子と犬山の子どもの自然交流事業



「東日本大震災で愛知県に避難してきている親子と犬山の子どもの交流」を目指して、実行委員会で事業の内容を決め秋に実施しました。地域の団体との連携事業です。

1 実行委員会 6回（6月～11月）開催し、活動内容決定、準備等をしてきました。

2 東北被災者親子と犬山の子供の交流

*と き 11月1日（土）午前9時～2日（日）午後2時

*ところ 犬山市野外活動センター一帯

*対象者 避難者親子26人、犬山の子供49人（保護者等24人）、ボランティア30人

*活動内容

<一日目> 11月1日

第1部体験コーナー 午前10時20分～午後3時30分

☆鬼が島・ツリー・アドベンチャー ☆魚を釣って 食べよう！

☆くねくね 竹パンづくり ☆土と あそぼう ☆ふるさと交流レストラン

★昼食・休憩

第2部 シェルターづくりは雨のため中止。火を囲んで・・・

<二日目> 11月2日

第3部 熱気球搭乗 午前6時30分～7時30分

第4部 防災教室 午前10時～12時

「トランシーバー交信体験」「紙の食器づくり」「消火器でのあて」「伝言ゲーム」

★昼食

★解散 午後1時

*連携団体

NPO法人シェイクハnz、グリーンマップ犬山、有機米つくろう会、ひとつばたごの会
ワークショップこころ、おかげさま、郷瀬川清流会、犬山市レクリエーション指導者クラブ
犬山甲冑制作同好会、犬山よりみち探偵団、桃山広房

4 事業報告書作成 100部

(2) 市民活動交流フォーラム ～犬山のNPO・ボランティア活動・・・～

平成27年1月18日（日）に犬山市福祉会館で、上記テーマで犬山市と共催で開催しました。



◆基調講演では、演題「ボランティア活動から得られるもの・・・」で愛知淑徳大学教授榎田勝利氏からお話をいただいた。

☆ボランティアとは、日本では「奉仕活動」と理解されているが、アメリカでは、「コミュニティサービス」と理解されており、社会参加ととらえられており、自らの心からの思い、行動で自己実現の場と思っている。

☆大学生のボランティアの捉え方、参加動機では、「きっかけがない」多くの学生が答えているようです。

☆ボランティアにやさしい組織とは？

- ① 各組織の使命、存在理由、明確なビジョンを持ち、有給スタッフやボランティアにまで理解されている
- ② 有給スタッフと同様ボランティアも組織の目的を達成するための一員として理解と協力関係を築く努力がされている

☆ボランティアとして、人間として心がけていること

- ① ケア（CARE） 思いやりの心を持つこと
 - ② フェア（FAIR） 違いを共に生きられること 公正で平等な扱い
 - ③ シェア（SHARE） 分かち合いの心を持つこと 痛み分けできること
- などのお話があり、とても分かりやすかった。

◆パネルディスカッション「犬山のNPO・ボランティア活動」

パネラーの尾藤定（犬山市レクリエーション指導者クラブ会長）、木藤久（郷瀬川清流会代表）、高木啓子（犬山要約筆記サークルともだち代表）、丹羽慎一郎（城東小学校区コミュニティ推進協議会相談役）、市川隆司（犬山西地区コミュニティ推進協議会事務局長）から現在の活動状況、他団体との連携の有無、団体の課題などを話し合っていた。終わりにコメンテーターの榎田教授よりイベントの開催に当たっては、①楽しいものか？ ②活動自体が自分の為になり、他人の為になっているか？ ③地域にとって大切なものか？を十分検討することが大切とのアドバイスをいただいた。

◆東北物産展、パネル展示者とのコーヒーを飲みながらの交流会が持たれた。

(3) 木曽川源流・夏の交流合宿

～風のおっぱら、水の馬瀬・・・山村で
心が躍る、感動体験をしよう！！～

8月21日（木）1日目 高山市清美

おっぱら自然体験センター宿泊

☆砂金・水晶採り ☆野菜収穫

☆ランタンづくり・ナイトハイク

8月22日（金）2日目 下呂市馬瀬

水辺の館宿泊

☆沢登り ☆森の散策・クラフト作り

☆バーベキュー交流会

8月23日（土）3日目

☆森林アドベンチャー ☆馬瀬川釣り名人

★参加者 子ども25人 スタッフ10人 現地スタッフ：5人

◆子ども達が自然の中で活動しながら仲間との付き合い方、関わり方を学ぶには、二泊三日の宿泊交流が最適と考えています。自然の偉大さ、怖さも、その中から感じてもらうことを期待しています。

◆私が、一番関心を持っているのは、子ども達が感動体験をすることです。砂金を見つけた、水晶をとった。沢登りは水が冷たく、厳しい活動です。苦しい中で、滝壺の終着点に到達したときの子ども達の心に、何が湧き起こるかです。「ヤッター！」という声と共に、心には充足感が溢れているはず。森林アドベンチャーでも危険いっぱいコースをやりきった時の、感動・喜びは何にも代えがたいものです。「釣り名人」での魚を釣り上げた時の気持ちも・・・。



◆「感動」は活動への意欲を駆り立てるものです。次への活動への弾みになります。

これを数多く子ども達には味わってほしいのです。そのために、今後も危険のつきまとう活動を入れてゆきます。



(4) 木曽川源流・冬の交流合宿

～白銀の世界の中で
思いっきり遊びまわり、
感動体験をしよう！～

宿泊：おっぱら自然体験センター

平成27年1月10日（土） 1日目

☆ 班旗作り

☆ イグルーづくり・交流会

☆ 子ども交流会

1月11日（日） 2日目

☆ カンジキ山登り

☆ ランタンづくり、小さな熱気球体験

☆ 交流会

1月12（祝・月）3日目

☆ 雪あそび

★ 子ども23人、スタッフ10人、
愛知淑徳大学小島ゼミ生5人、計38人

◆今年度で4回目、この合宿のメインは「カンジキ山登り」です。今年は雪降りの中を出発、低学年が心配でした。山は低いのですが、慣れないカンジキを履いての山登り、相当悲鳴を上げた子どももいるはず。寒い中での頂上を極めた時はどうだったか？光景は登った人にしかわかりません。子ども達の風景は想像できます。「ヤッター」です。帰りは、雪が多いので尻で滑り降りることができたようです。



◆「たっせい！！」「登ったぞー」。この気持ちを大切にしながら事業を行っていきます。

◆「雪遊び」も子ども達は雪と思い切り戯れたことでしよう。



平成 26 年度あいちモリコロ基金助成事業

(5) 「生き物探検隊クライマックス」「冒険教室～上級編～」

子ども達は、この事業でみんながそれぞれ一回り大きくなり、自分に自信を持ったと確信しています（理事長 川島紀之）

(1) 生き物探検隊クライマックス 13人参加

今年も質の高い環境学習ができました。しかし今年は生き物、特に昆虫の数は少なめ……。昆虫の好きな子には残念な年でした。自然というのは思い通りにはいきません。毎日違います。だから面白い！そこで考え、チャレンジする。無限の答えを提示してくれる大自然への探検。そこから生きる力が育まれるものだと思います。

この講座では、県外や子どもでは行けないような遠い場所にもいきます。そこで自分の住む町との比較が出来るのも、とっても大きな学びの一つ。当たり前のように思っていた自分達の周りの貴重な自然に気づき、大切にしようと思う気持ちが生まれ、反対に本当はあるはずだったものがないことにも気づくはずです。

各回で出会った生き物達を通して、多くの大切な宝物を手に入れ、生き物や自然を大切に思える人になれたと思います。（宮田指導者の言葉）



(2) 冒険教室 ～上級コース～ 14人参加

年々難易度がアップしていく本講座ですが、こちらの想定を遙かに超えて、子ども達は障壁を乗り越えていきます。スタッフの力量向上もさることながら、それ以上に、子どものポテンシャルの高さには目を見張るものがあります。私たち大人が待つことさえ恐れなければ、子どもは自らの力で立ち、集い、考え、合意し、意志決定して実行するでしょう。そこにどう関わっていくか、大人としての経験やスキルが試されるのです。

狩猟道具であるナイフづくりでは男子が奮闘し、住処作りでは女子が絶大な力を発揮しました。

段ボール筏では究極アイテムである耐水シートを使うことなく川を渡り、サワガニやザリガニを貪り、濡れた木でも火を熾し、山で材を切り出して箸を削り、雨に打たれながらおむすびを頬張りました。

雨に濡れながら歩き続けた時間、火を囲んで寒さを凌いだ夜、獲物を自分で狩って食べた経験が原体験として色濃く残ってくれば嬉しく思います。

もっと強く、もっと逞しく、もっと知恵をしばって、もっと生き活きと。留まることなく成長されることを望みます。（古澤指導者の言葉）



(6) 託児事業（事業で託児をしてほしい方向け・・・）

託児をしてほしいグループ・団体、行政の方 どうぞ利用してください！！

託児する人が極めて少ない状況の中、思い切って「しみんてい」では、子どもを預かることによって勉強したり、主催者の事業に参加出来たりと、あなたの成長のため、あなたの社会参加に協力できたらと考え、小さな子どもさんを預かる「託児事業」を実施しております。

どうぞ！！託児を利用してください！！

26年度14回30名、25年度は、託児を受けた回数は20回、託児者数42名です。



(7) 甲冑利用・管理事業

平成18年度から22年度までの5か年計画で、名古屋市在住の甲冑師 小川伸道先生から甲冑師を養成してもらい、その間養成を受けている人たちで「犬山甲冑制作同好会」を創設しました。

平成23年度からは、甲冑の利用管理を「犬山甲冑制作同会」にお願いしています。

「甲冑工房」は借用し、同会に管理運営を行ってもらっています。

甲冑の試着数は、平成26年度220人（大人66人、子ども154人）143千円、平成25年度221人、24年度は240人、平成23年度255人です。



(8) まちの駅運営事業

発足当時から「まちの駅」の運営を行っています。ここ数年、第1・第3日曜日には、専任の担当者高木茂子さんが担当して、お抹茶、コーヒーをお出ししています。

朝市として、別府さんが野菜の販売なども行っています。

1月以降、シェイクハンズが土曜日、日曜日にも食べ物、フェアートレードの販売を行い賑わいを作り出してくれました。



(9) しみんてい広房

I 城下町での協働事業

(1) 春の犬山お城まつり

4月5日（土）～6日（日） 2,500人

今年も多くの会員関係者が出店していただき盛況を極めました。
ボランティアで参加していただいた関係者には厚く感謝いたします。



(2) 犬山城下町日南焼酎まつり

6月7日（土）～8日（日） 入場者 500人



(3) 犬山城下町ビールまつり

9月20日(土)～21日(日) 入場者 700人



(4) 犬山城下町秋祭り

10月25日(土)～26日(日) 入場者 1,000人



(5) 犬山城下町ワインまつり

11月8日(土)～9日(日) 入場者 1,500人



(6) 犬山城下町あったか鍋と地酒まつり

3月14日(土)～15日(日) 入場者 1,500人



(7) 城下町百円（縁）市

第3日曜日

24度より「城下町を活性化する会」が第3日曜日に百円のものを中心に市民ももっと気楽に出店してもらうために、百円市を始めたので、それに参画している。



(8) 犬山城下町おひなさまめぐり

2月10日（火）～3月10日（火）

犬山北のまちづくり推進協議会が提唱し、城下町をお雛様で埋めようと活動を開始したので、それに参画した。



Ⅱ 他の協働事業

(1) 愛フェス2014

9月13日(土)～14日(日) 入場者 150人

ファンディングと東北支援をしている催事に参画。クラフト作りでは、子ども向けの「くるくるレインボー」「紙竹とんぼ」で好評を得ました。



(2) 犬山市産業振興祭

10月11日(土)～12日(日) 1,700人

この事業には、犬山しみんていの会のPRと子ども向けのクラフト作りを持って参加した。クラフトは、「くるくるレインボー」「紙竹とんぼ」を出展。(特)シェイクハンズがフェアトレード商品の販売を通じて参加した。

(3) 第5回 Make a CHANGE Day

10月～3月末日のボランティア活動で参画

この催事は、全国にボランティア活動を広げ、参画することによって社会を変えていこうとする趣旨で開催されている。

Ⅲ 広 房

(1)「はてな?のようちえん」 述べ参加者数 60人
8月4日(月)、11日(月)、18日(月) しみんてい

4歳～6歳と保護者を対象に身近な「はてな?」を入り口にして“科学する心”を育むことを目的に開催しました。実施してくれた人は「りとるらぼ」の古澤法之さんと吉橋久美子さんです。



(10) 犬山「子ども大学」

26年度は、20講座420人の参加です。ここ数年受講者が減少気味ですが、これは児童・生徒数自体が減少していることと関係があると考えます。内訳は、犬山市委託事業 18 講座、愛知モリコロ基金助成事業 2 講座です。

(25 年度 20 講座 421 人、24 年度 22 講座 431 名、23 年度 21 講座 453 名、22 年度は 22 講座 473 名、21 年度 21 講座 408 名、20 年度 22 講座 436 名、19 年度 17 講座 362 名、18 年度 18 講座 363 名、17 年度 15 講座 287 名、16 年度 13 講座 196 名)

26年度の特色は、「生き物探検隊クライマックス」が活動時間7時間を4回。犬山以外の場所に出かけることによって、犬山との比較もでき、多くの生き物とも出会い、沢山の宝物を得ることができ、自然に対する優しさが芽生えてきたと思っています。

「冒険教室～上級編～」は1日7時間の活動が4回、一泊二日（午前9時から翌日午後4時）が3回です。子ども達は指導者が想像するより高い能力を発揮してくれます。

更に、「犬山原始人クラブ」は、犬山を出ての活動が多く、原始人になりきった物づくりに集中していた。

これらの活動は、通常の子ども大学よりはるかに多くの時間活動しています。この活動に関わった子ども達は、一回り大きくなり、自分自身に自信を持てたと言っています。指導者は、子ども達が活動を通じて逞しくなったのが手に取るようにわかったと言っています。

多くの子どもたちがこの事業に挑戦してほしいと思います。

※ 具体的な活動内容は、別冊参照。

平成 26 年度 犬山「子ども大学」 講座一覧 ＜犬山市委託事業＞

① 国際理解 世界をめぐる子ども達	22 人
② 日本文化にふれよう！“お茶・お花”	20 人
③ 生き物探検隊 パートⅠ	27 人
④ 生き物探検隊 パートⅡ	17 人
⑤ サイエンス 電子工作	18 人
⑥ 君も エジソンになれる！	33 人
⑦ はじめての 楽しい陶芸	22 人
⑧ 囲碁・将棋たいけん教室	23 人
⑨ 伊勢型紙“やさしい 型紙づくり と 型ぞめ”	12 人
⑩ 楽しく絵をかこう 午前の部	19 人
⑪ 楽しく絵をかこう 午後の部	15 人
⑫ 和太鼓を たのしく たたこう	18 人
⑬ 押し花で ものづくり	22 人
⑭ 犬山原始人クラブ	23 人
⑮ レクスポーツって なんだ？	38 人
⑯ 冒険教室 基礎コース	18 人
⑰ 子どもの自然教室 午前の部	23 人
⑱ 子どもの自然教室 午後の部	23 人

＜あいちモリコロ基金助成事業＞

① 生き物探検隊 クライマックス	13 人
② 冒険教室 上級コース	14 人

計 420 人

〔Ⅳ〕 調査研究・政策提言事業

〔Ⅰ〕 政策提言

NPOに関わる平成27年度の提案書を平成26年10月10日に、犬山市長と犬山市教育委員会へ提出した。

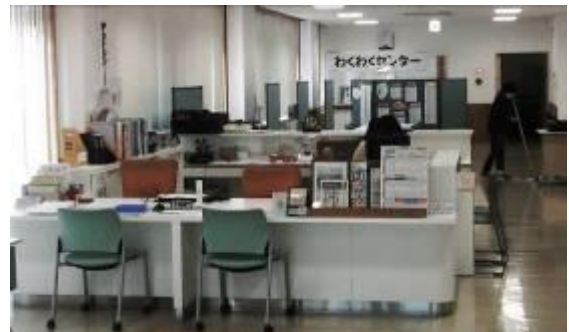
提言書抜粋

- (1) しみんていの塀と炊事場の改修について
- (2) コミュニティ活動の一層の充実のために
- (3) 自治体の憲法の制定「自治基本条例の制定」について
- (4) 多文化共生時代への対応について
- (5) 市の委託事業化の推進について
- (6) 甲冑工房の運営管理について
- (7) 犬山子ども大学について
- (8) 小中学校配置の外国籍児童生徒に対する指導員の待遇改善について
- (9) 犬山市役所でのNPO活動に対する理解促進及び啓発事業
 - ① NPO関係庁内連絡会議の開催
 - ② NPOに関する職員研修の実施について

〔Ⅱ〕 視察研修について

平成27年3月24日（火）に「安城市民交流センター」で、勉強させてもらい、その後「西浦温泉ホテルたつき」で交流を深めた。13人参加しました。

参加者：西尾、小林、松本、柴山、木藤、吉田、正垣、松山、高木、齋藤知、高津、川島、齋藤雅



〔Ⅲ〕 政策NPO学会

政策NPO学会総会（7月5～6日横浜大会）に参加できませんでした。

〔V〕 施設運営・整備事業

（１） 施設利用状況

2014年度
市民活動支援センター利用者調べ

年／月	来館者数	団体利用		個人利用者数	
		団体数	利用者数	コピー	印刷
” 14/04	2,701	23	480	17	8
5	803	18	163	10	12
6	722	21	165	10	11
7	287	23	173	14	7
8	313	23	272	10	6
9	932	33	351	14	8
10	1,354	30	334	11	4
11	2,751	32	304	17	6
12	678	28	333	5	7
” 15/01	598	26	333	8	6
2	867	34	425	16	10
3	1979	28	239	18	12
合計	13,985	319	3,572	150	97

総利用者数	17,804 人
総利用団体	319 団体

（２） 前年度までの利用者・団体数の推移

年 度	総利用者数	総利用団体
2013	10,888	255
2012	10,661	270
2011	18,406	275
2010	16,849	351
2009	14,396	374
2008	14,165	445
2007	12,264	294
2006	11,425	297

〔VI〕 会議開催状況

犬山しみんていの会は、定例的に理事会と運営委員会を交互に開催しています。

大きなイベントは、実行委員会を結成して、毎月事業実施まで会合を持っています。

（１） 定例会議

名称	回	日時	主な議題
理事会	第１回	４月２２日（火）	* 総会資料について
	第２回	７月 ８日（火）	* 夏の交流合宿等
	第３回	９月 ９日（火）	* 愛フェス、ビール祭り、市産業振興祭等
	第４回	１１月１１日（火）	* フォーラムとき会場決定、決算見込み
	第５回	１２月２３日（火）	* 市民活動交流フォーラムについて等
	第６回	２月１０日（火）	* ２７年度事業計画、あったか鍋と地酒まつり等
運営委員会	第１回	６月１０日（火）	* 森と遊ぼう実行委員会立ち上げ
	第２回	８月１２日（火）	* 夏の交流合宿、愛フェス参加等
	第３回	１０月１４日（火）	* 犬山産業振興祭、秋祭り、ワインまつり等
	第４回	１２月 ２日（火）	* 城下町おひなさま巡り、フォーラム等
	第５回	３月１０日（火）	* 視察・交流会、事業計画・予算等
実行委員会	第１回	６月１０日（火）	* 東北被災者親子と犬山の子供交流
	第２回	７月 ８日（火）	* 東北被災者親子と犬山の子供交流
	第３回	８月 ６日（火）	* 東北被災者親子と犬山の子供交流
	第４回	９月 ９日（火）	* 東北被災者親子と犬山の子供交流
	第５回	１０月１４日（火）	* 東北被災者親子と犬山の子供交流最後の確認
	第１回	１１月 ９日（火）	* 市民活動交流フォーラム立ち上げ
	第２回	１２月１０日（火）	* 市民活動交流フォーラム
	第３回	１月 ６日（火）	* 市民活動交流フォーラム
総会	５月１１日（日）午前１０時～ 終了後昼食交流会		

※理事会は、理事に限定。

※理事会と運営委員会は毎月１回交互に実施。（第２火曜日）

（２） その他の会議

（１） 副理事長会議 ２月１０日（火）１８：３０～

（２） 事務局会議、月に１回開催。

（３） 出展者打合せ会は随時開催

(VII) 報道関係ニュース

中日新聞 14 近郊版

2014年(平成26年)5月26日(月曜日)

近郊版

工作や冒険の講座 「子ども大学」開校

犬山

学校や家庭ではできないユニークな自然体験や文化学習ができる。地元のNPO法人「犬山市子ども大学」の開校式が二十五日、市民文化会館であり、小中学生と保護者ら八百人が参加した。

「犬山しみんていの」けて実施。開校式で、会」が、市の委託を受」会の川島紀之理事長が「体験は工作」「冒険教室」の心の中に「和太鼓をたのしくたたまり、物たこう」など二十講座事を考えるがある。それぞれ月よりどころ一、二回のペースで、十回程度開かれる。述べた。各全講座を終えた後の講座の講師来々二月、活動成果発たちも壇上表会がある。

身ぶりを交えて講座の紹介をする講師たち＝大山市民文化会館で





子育て中の人、託児に興味のある人、すでに託児活動をされている人、どなたでも参加できます。

子育て中の人には、ヒントが得られるかも？！
シニアの人も、お待ちしています。（お子さん同伴も可）

▼とき 6月4日（水）午前10時～正午 ▼ところ 南部公民館展示室1 ▼内容 子ども達の健康についてお話を聞き、バルーンアートづくりを楽しみます ▼講師 松浦恵子さん（NPO法人地球ごも村、看護師）、本周年子さん

▼参加料 500円 ▼申込み NPO犬山しみんていの会（☎61・7710 FAX 61・8108）

E-mail:center@inuyama-shimintei.com

犬山しみんていの会
託児グループ
「てんとうむし」
この指と～まれ！
託児ステップアップ講座

足、触角に気を付けて

夏休みを迎え、家族でどこに出かけようかと思案している人も多いはず。自然の中で昆虫を捕まえて、その標本を作るのも一案では。大山市子ども大学の講座「生き物探検隊」で講師を務める宮田賢輔さん(三三)に、昆虫採集と標本作りの楽しみ方を聞いた。

(金藤 博史)

大山市栗栖の野外活動センターで今月十三日に開かれた「生き物探検隊」。子どもたちが宮田さんの指導で、昆虫の標本作りに熱中していた。手元にあるのは、昆虫を載せた発泡スチロール。



昆虫標本の作り方を指導する宮田さん(左)=大山市の野外活動センターで

犬山・昆虫採集と標本作り

準備。飼っていて死んだくち、左右対称になる昆虫を冷凍しても、採ったように整えたら、その形のまま針で固定する。針が折れないよう、また針を両端に刺していい。厚さ三ミリ程度の発泡スチロール、昆虫標本用の中じり、まち針が必要だ。

最初に虫じりを昆虫に刺し、発泡スチロールに固定。刺す場所は右羽の根元の中央寄りのところ。次に二本の足を大きく

で留め、昆虫の種名と採集日時、場所、採集者を書いたラベルを付け、防虫剤を入れれば完成だ。防虫剤は効果がなくなる前に定期的に交換する。

宮田さんは「足や触角は折れやすいので、気を付けること。両足で練習すれば上手になる」と話す。甲虫ができるようになれば、チョウやトンボに挑戦してもいい。

近くの林で、昆虫採集をするときにも、ポイントがある。例えば、甲虫を採るなら木の幹。それも、林の奥より、林の端や遊歩道近くなどで、密集せずに一本だけ立っている木を狙う。

甲虫は、八センチメートルほどの木の幹を傷つけ、樹液が出ているところが好き。周囲にハチなどが飛びやすい空間がある方が集まりやすい。昼間にカナブンがいる木には、夜間、夜行性のクワガタやカブトムシが来る可能性が高い。

親子で昆虫採集に行けば、どんな生き物がどんな木にいるのかを学べる。「親子で環境のことまで話し合おう、昆虫採集の意義が深まる」と宮田さん。「標本作りのために昆虫を殺すのはかわいそうかもしれないが、そこから命の大切さを学んでほしい」と語っている。



昆虫標本ができるまで



採ってきた昆虫を形を整え、まち針などを使って固定する。ラベルを書いて完成

- ・甲虫がいないのは遊歩道に近い木の幹
- ・昼間にカナブンがいる場所には夜はカブトムシやクワガタがいる
- ・標本作りでは足や触角を折らないように気を付ける



中 日 新 聞

17 近 郊 2014年(平成26年)8月19日(火曜日)

料理通じ科学を学ぶ

犬山 園児と保護者24人参加

料理を通じて園児の科学への興味を育むワークショップ(体験講座)「はてな?のようちえん」が十八日、犬山市の犬山市民活動支援センターであり、園児と母親ら二十四人が参加した。

建築のワークショップ「くらすばタテルカ」を主宰する吉橋久美子さん(四〇)＝豊田市＝が企画し、NPO法人犬山市民活動支援センターの会が主催した。四日の目玉焼き、十一日の豆腐作りに続

く最終回で、おむすびを作った。園児は「おむすびに

はどんな形があるか」「なぜお米を水につけるのか」などを母親と相談しながら考えた。ご飯が炊けると、おむすびを握り、目玉焼きや焼き豆腐を作

って、みんなで味わった。
 (田中富隆)



炊きたてのご飯でおむすびを握る園児＝犬山市民活動支援センターで

中 日 新 聞

2014年(平成26年)11月2日(日曜日)

近 郊 20

近郊版

(第3種郵便物認可)



避難家族と児童ら交流

犬山 竹パン作りなど楽しむ

東日本大震災で被災し県内に避難している家族と犬山市の小学生ら九十五人が一日、同市栗栖の市野外活動センターで交流した。NPO法人犬山しみんていの会が一日二日の日程で企画し、昨年に続き二回目。親子二十人が避難先の名古屋市などから訪れた。

竹に巻いたパンを焼く参加者ら。犬山市野外活動センターで

初日は地元児童や保護者、会のスタッフと近くの木曽川で魚釣り、竹に生地を巻いて焼く「竹パン作り」、竹とんぼや竹の打楽器作りなどを体験した。

福島県川俣町から名古屋市長区に避難している藤田寛子さん(右)は娘(左)ら二人と参加。「地元の人と触れ合え、被災者同士の交流もできるいい機会。自然も豊かで、古

里の山あいのように気が晴れる」と話した。

最終日はトランシーバー交信体験、紙の食器作りなどを通じて防災を学ぶ。

(田中富隆)

尾本ホーム

平成27年(2015年)

2月6日(金)

第1729号

毎週金曜日発行

NEWS

配布区域(江南市、犬山市、扶桑町、大口町、一宮市の一部)
<http://www.homenews.jp/>

雪ん子体験

犬山の子どもたち

犬山の子どもたちが、高山市清見町のおつばら自然体験センターで、2泊3日の雪ん子体験をしました。

「普段体験できない雪国の美しさや素晴らしい景色ばかりでなく、困難や大変さも含めて思いっきり体験しよう」と犬山しみんていの会が企画し、24人の小学生とボランティア

雪洞づくり山登り



▲雪の中く一斉に飛び込みました

指導者が参加しました。イグルー(雪洞)づくりは子どもたちにとって大変な作業で、この時期の雪は水分が少なくなかなか固まらず、踏み固めるのにひと苦労。固めた雪のブロックを運んで積み重ね、みんなで力を合わせて完成させたイグルーに灯をともすと、子どもたちはその幻想的は雰囲気感動していました。

2日目はかんじきを履いての山登り。「見るのも初めて」と言う子どもも多く、履くのに苦労し、自



かんじきを履いての山登り

苦しかった分、成長したね

分のかんじきを踏んで転倒してしまう場面も。雪が降りしきり視界も狭い中、ひたすら登り、苦しい2時間半の山登りでしたが、励まし合い登り切った表情は、どの子どもも晴れやかでした。

3日目は雪遊び。自由に思いきり雪の中を駆け回る子どもたちはどの子ども満面の笑顔で、思う存分遊び続けていました。

清水さくらさん(4年)は、「山登りは足が深い雪にはまって疲れたしつらかったけど、3日間すごく楽しかった。できたらまた来たい」と話し、同会の川島紀之理事長は「苦しいことが多かった分、子どもたちは貴重な体験をし、楽しみ、成長したと思います。今後も交流合宿を続けていきます」と話しています。



完成したイグルー(雪洞)

活動報告と交流図る

犬山のNPO・ボランティア団体

「犬山のNPO・ボランティア活動」と題した市民活動交流フォーラムが1月18日、犬山市福祉会館で行われました。同市、特同市民活動支援センターの会主催。NPOやボランティア団体の多様な組織の在り方を知り、自分に合った

ボランティア活動を選ぶなどの主旨で、21団体、約100人が参加しました。1部では、犬山市レクリエーション指導者クラブ、郷瀬川清流会、犬山要約筆記サークルとまち、城東小学校区コミュニティ推進協議会、犬山西部地区コミュニティ推進協議会が、各団体の形態や活動状況をアピール。「会員が増えない」など課題も提示され、愛知淑徳大学の榎田勝利教授が「皆さん良い活動をしているので組織改善をすることで大変な思いを減らし、団体の仲間を増やせるような工夫を」などアドバイスしました。

2部の講演では、榎田教授が「ボランティア活動から得られるもの」と題し、奉仕活動とボランティアの違いやさまざまなボランティアの形、自分に適した活動の選び方、ボランティアに優しい組織、学生にとつてのボランティア参加の意義など若者の参加を促す方法の勧め、人としてボランティアとして心掛けたい3つの要件①ケア（思いやり）の心 ②フェア（違いを共にでき、公平で平等に） ③シェア（分かち合い、痛み分けの心）を示し、締めくくりました。犬山レクリエーション指導者クラブの尾藤定

さんは、「ジャンルが違う団体の組織のことも分かれば、実際に提案し取り入れたい」と話していました。講演では会員に楽しく参

画してもらった工夫も学べ、実際に提案し取り入れたい」と話していました。講演では会員に楽しく参

告知板

参加者募集

特シエイクハズは多文化共生シンポジウム、生活に根ざした日本語教育の場とネットワークづくりを14日(土)13:30~17:00、犬山国際観光センター2階研修室1、2で開催します。

第1部は群馬大学・結城恵教授の基調講演。

第2部は「尾張北部地域の外国人状況と各地域の取り組み」として特シ



活動報告の様子

尾北ホームニュース

平成27年2月20日（金曜日）【2】

1年間の成果発表

□ 犬山子ども大学 □

火起こし
民族衣装
太鼓演奏

20講座

犬山子ども大学の活動
成果発表会（閉校式）が
1日に犬山市文化会館で
行われ、約350組の親子が
参加しました。
発表に先立ち、山田拓
郎犬山市長は「今日はと
ても楽しみにしてしまし
た。1年間の思い出つ
ぱいの成果を思いつきり
発表してください」と激
励。20講座それぞれに参
加した子どもたちの発表
のトップバッターは「日
本文化にふれよう！お茶
・お花」で、落ち着いた
様子でお点前を披露しま
した。

民族衣装を着て発表する子どもたち



太鼓の演奏を披露する子どもたち

「原始人クラブ」の火
起こしは皆で息を詰めて
見守り、「生き物探検隊」
の発表では本物のへびも
登場。ほとんどの子がこ
の1年間で、へびに触れ
るようになりました。

「冒険教室」の源流探
索などの映像は庄奏で、
民族衣装を着た「国際理
解」の子どもたちもはき
はきと発表。

「太鼓を楽しくたたく
う」の演奏では会場が
揺れんばかりの迫力に、
拍手喝采でした。

会場では、1つの発表
が終わるたびにあららこ
ちから「来年はこれが
いいね」の声。また、自
分が学んだ講座の映像に
みな感慨深げでした。

犬山しみんていの会の
川島紀之理事長も「講座
ごとのリピーターもうれ
しいですが、いろんな講

座に参加してより多くの
体験を積んでほしい」と
話していました。

(VIII) 平成26年度決算報告

平成26年度収支計算書

(従来様式・参考資料、単位：円)

I. 経常収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
1 会 費				
① 正 会 員	240,000	213,000	△27,000	1 口 3,000 円×71 口 (個人 45-45 口、団体 24-26 口)
② 賛 助 会 員	180,000	144,000	△36,000	個人 3、法人 16
③ 情 報 会 員	30,000	21,000	△9,000	1 口 3,000 円×7 口 (個人 5-5 口、団体 2-2 口)
小 計	450,000	378,000	△72,000	
2 委 託 料				
①施設運営事業	2,481,000	2,480,920	△ 80	施設管理、消耗品
②コーディネイト事業	2,565,000	2,565,000	0	各種相談・支援
③NPO 協働推進事業	1,100,000	1,100,000	0	フォーラム、行政との協働実践事業
④子ども大学委託事業	6,349,000	6,349,000	0	国際理解等 18 講座
⑤犬山お城まつり	0	20,000	20,000	犬山お城まつり実行委員会
小 計	12,495,000	12,514,920	19,920	
3 助 成 金				
①犬山市観光協会	300,000	300,000	0	甲冑類管理・利用
②あいちモリコロ基金	700,000	700,000	0	生き物探検隊 クライマックス、冒険教室 上級
③福祉医療機構	630,000	0	△ 630,000	木曽川源流、夏・冬交流合宿
④子どもゆめ基金	440,000	440,000	0	東北被災者親子と犬山の子どもの交流
⑤子どもゆめ基金	0	205,000	205,000	木曽川源流、冬の交流合宿
小 計	2,070,000	1,645,000	△ 425,000	
4 参 加 費(事業収入)				
①広房事業	100,000	507,639	407,639	まちの駅 377,270、愛フェス・振興祭 74,269、他
②人材育成事業	20,000	19,000	△ 1,000	託児養成講座
③子ども大学	255,000	231,000	△ 24,000	冒険上級 140,000、生き物クライマックス 91,000
④ネットワーク事業	1,420,000	1,542,855	122,855	夏冬交流 1,176,980、フォーラム 72,875、被災者交流 147,000、甲冑 146,000
⑤城下町協働事業	0	417,030	417,030	ワイン祭 220,790、焼酎祭 64,610、鍋地酒祭 64,600、ビール祭 23,250、他
小 計	1,795,000	2,717,524	922,524	
5 使 用 料(事業収入)				
①設備運営事業	200,000	137,979	△ 62,021	印刷コピー 92,843、自販機 36,836、他
②拡大印刷事業	150,000	112,150	△ 37,850	ポスター 41,050、看板 38,700、横断幕 21,300、他
小 計	350,000	250,129	△ 99,871	
6 寄 付 金				
①寄付金	100,000	470,650	370,650	協働事業 131,808、個人 124,320、他
小 計	100,000	470,650	370,650	
7 その他				
①雑収入	10,000	21,140	11,140	暖房代、切手代、他
②受取利息	0	673	673	
小 計	10,000	21,813	11,813	
8 前年度繰越金	1,000,000		△1,000,000	
経常収入合計	18,270,000	17,998,036	△ 271,964	

Ⅱ. 経常支出の部

[1]事業費

科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
1 研修事業				
①NPO リーダー育成研修	50,000	0	50,000	
小 計	50,000	0	50,000	
2 普及啓発・情報提供				
①ニュースの発行	60,000	103,682	△43,682	郵送費 81,878、用紙・インク代 21,804
②ネットワーク運営	548,000	388,400	159,600	人件費 388,400、ホームページの改善・更新
③大掲示板整備	2,000	0	2,000	大掲示板整備
小 計	610,000	492,082	117,918	
3 相談・助言事業				
①コーディネート助言・相談	2,565,000	2,548,800	16,200	人件費 2,548,800、NPO 相談・助言、等
小 計	2,565,000	2,548,800	16,200	
科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
4 人材交流ネットワーク				
①市民活動交流フォーラム	342,000	476,390	△134,390	人件費 212,400、謝礼 141,000、消耗品 35,914、他
②NPO 行政協働実践	210,000	178,124	31,876	人件費 141,600、消耗品 25,871、他
③しみんてい広房事業	213,000	327,925	△114,925	城下町 250,847、愛フェス・振興祭 62,935、他
④まちの駅運営事業	70,000	176,981	△106,981	謝礼 27,000、消耗品 149,981
⑤甲冑管理・利用事業	630,000	629,103	897	借料 540,000、光熱費 61,215、保管料 24,000、他
⑥子ども大学事業	6,349,000	6,349,000	0	人件費 768,000、謝礼 2,813,120、教材 1,695,443、他
⑦多文化共生推進事業	20,000	0	20,000	
⑧夏の交流合宿	642,930	597,945	44,985	謝礼 130,000、賃借料 88,500、消耗品 176,278、他
⑨冬の交流合宿	705,070	739,274	△34,204	謝礼 122,000、賃借料 311,400、消耗品 163,922、他
⑩託児者養成	40,000	65,420	△25,420	謝礼 56,000、消耗品 9,420
⑪犬山子ども自然冒険隊	1,000,000	989,941	10,059	人件費 179,200、謝礼 630,000、教材 139,053、他
⑫被災者支援交流事業	642,000	614,927	27,073	謝礼 175,000、消耗品 206,850、借料 34,282、他
小 計	10,864,000	11,145,030	△281,030	
5 調査研究・政策提言				
①研 修	50,000	22,370	27,630	交通費 12,220、会議費 9,090、他
②政策提言	3,000	0	3,000	
③研究・情報収集	60,000	43,585	16,415	諸会費 31,000、交通費 2,300、他
④ポニー牧場調査・研究	3,000	0	3,000	
⑤まちづくり研究集会	40,000	0	40,000	
小 計	156,000	65,955	90,045	
事業費合計	14,245,000	14,251,867	△ 6,867	

[2]管理費

科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
1 管理運営	2,857,000			
①□ 件費		2,496,390		管理人人件費
③ 定福利		264,715		労働保険料
④ 費交通費		39,920		各種会議・報告会出席 旅費
⑤ 送 費		54,473		各種案内・報告書・連絡書 郵送代
⑥ 信 費		60,637		中部ケーブル
⑦ 耗品費		123,430		印刷用紙・インク 他
⑧ 品消耗品費		10,600		台所用品、他
⑧水道光熱費		74,752		ガス代
⑨賃 借 料		103,795		コピー機・印刷機 使用料
⑩新聞図書費		38,806		新聞・書籍代
⑪保 険 料		8,800		ボランティア保険
⑫諸 会 費		32,000		商工会議所、まちづくり協会、青少年市民会議 他
⑬会 議 費		1,190		市長と会談
⑭租税 公課		270,700		消費税、印紙代
⑮支払手数料		13,447		振込手数料
⑯慶 弔 費		20,000		
⑰雑 費		0		
小 計	2,857,000	3,613,655	△756,655	
2 環境整備				
①環境整備	10,000	7,798	2,202	修繕費
小 計	10,000	7,798	2,202	
管理費合計	2,867,000	3,621,453	△754,453	

[3] 予備費

科 目	予 算	決 算	差 異	
3 予備費	300,000	0	300,000	

Ⅲ. 経常支出合計	予 算	決 算	差 異	
	17,412,000	17,873,320	△461,320	

Ⅳ. 経常収支差	予 算	決 算	差 異	
	858,000	124,716	733,284	

Ⅴ. 経常外費用	予 算	決 算	差 異	
過年度損益修正損		5,392	△ 5,392	平成25年度助成金減額 (子ども夢基金 冬の交流合宿)

	決 算	
Ⅵ. 当期正味財産増減	119,324	
Ⅶ. 前期繰越正味財産	2,253,730	
Ⅷ. 正味財産合計	2,373,054	

特定非営利活動法人 犬山市民活動支援センターの会

平成 26 年度 活動計算書 2014/4/1 ~ 2015/3/31

(単位：円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	213,000		
賛助会員受取会費	144,000		
情報会員受取会費	21,000	378,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	470,650	470,650	
3. 受取助成金等			
受取助成金	1,645,000	1,645,000	
4. 事業収益			
事業収益	2,967,653		
受託事業収益	12,514,920	15,482,573	
5. その他収益			
受取利息	673		
雑収益	21,140	21,813	
経常収益計			17,998,036
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	4,238,400		
人件費計	4,238,400		
(2)その他経費			
諸謝金	4,094,120		
印刷製本費	34,828		
業務指導料	124,800		
会議費	14,630		
旅費交通費	224,394		
郵送費	143,507		
通信費	73,270		
消耗品費	924,853		
教材費	1,834,496		
水道光熱費	61,215		
新聞図書賃	15,853		
地代 家賃	540,000		
賃貸料	649,082		
広告宣伝費	16,470		
保険料	64,400		
諸会費	88,000		
支払手数料	5,508		
雑費	49,500		
仕入れ	308,144		
雑役務費	746,397		
その他経費計	10,013,467		
事業費計		14,251,867	

科 目	金 額		
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	2,496,390		
法定福利費	264,715		
人件費計	2,761,105		
(2) その他経費			
会議費	1,190		
旅費交通費	39,920		
郵送費	54,473		
通信費	60,637		
消耗品費	123,430		
修繕費	7,798		
備品消耗品費	10,600		
水道光熱費	74,752		
賃借料	103,795		
新聞図書費	38,806		
保険料	8,800		
諸会費	32,000		
慶弔費	20,000		
租税公課	270,700		
支払手数料	13,447		
その他経費計	860,348		
管理費計		3,621,453	
經常費用計			17,873,320
当期經常増減額			124,716
Ⅲ 經常外収益			
1. 過年度損益修正益		0	
經常外収益計			0
Ⅳ 經常外費用			
1. 過年度損益修正損		5,392	
經常外費用計			5,392
税引前当期正味財産増減額			119,324
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			119,324
前期繰越正味財産額			2,253,730
次期繰越正味財産額			2,373,054

平成 26 年度 貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日 現在

特定非営利活動法人 犬山市民活動支援センターの会

(単位：円)

科目・摘要	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	2,043,752		
未収金	385,000		
前払金			
流動資産合計		2,428,752	
2 固定資産			
車両運搬具	0		
什器備品	0		
固定資産合計		0	
資産合計			2,428,752
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	0		
前受金	0		
預り金	55,698		
流動負債合計		55,698	
2 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			55,698
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,253,730	
当期正味財産増減額		119,324	
正味財産合計			2,373,054
負債及び正味財産合計			2,428,752

平成 26 年度 財産目録

平成 27 年 3 月 31 日 現在

特定非営利活動法人 犬山市民活動支援センターの会

(単位：円)

科目・摘要		金額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	現金手許有高	353,141	
普通預金	十六銀行犬山支店	285,604	
定期預金	十六銀行犬山支店	1,405,007	
未収金			
	子ども夢基金助成金	385,000	
流動資産合計			2,428,752
2 固定資産			
車両運搬具		0	
什器備品		0	
固定資産合計			0
資産合計			2,428,752
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	職員に対する源泉所得税(給与)	16,575	
預り金	職員に対する源泉所得税(報酬)	10,433	
預り金	職員に対する雇用保険	8,448	
預り金	職員に対する健康保険	7,331	
預り金	職員に対する厚生年金保険	12,911	
流動負債合計			55,698
2 固定負債			
長期借入金		0	
固定負債合計			0
負債合計			55,698
正味財産			2,373,054

〔IX〕 平成26年度監査報告

監査報告書

平成26年度特定非営利活動法人犬山市民活動支援センターの会の決算について、平成26年4月1日～平成27年3月31日までの事業内容について、厳正に監査を行った結果、その内容は的確に且つ正確に処理されていました。

又事業の運営についても良好であると認められたので報告します。

平成27年 月 日

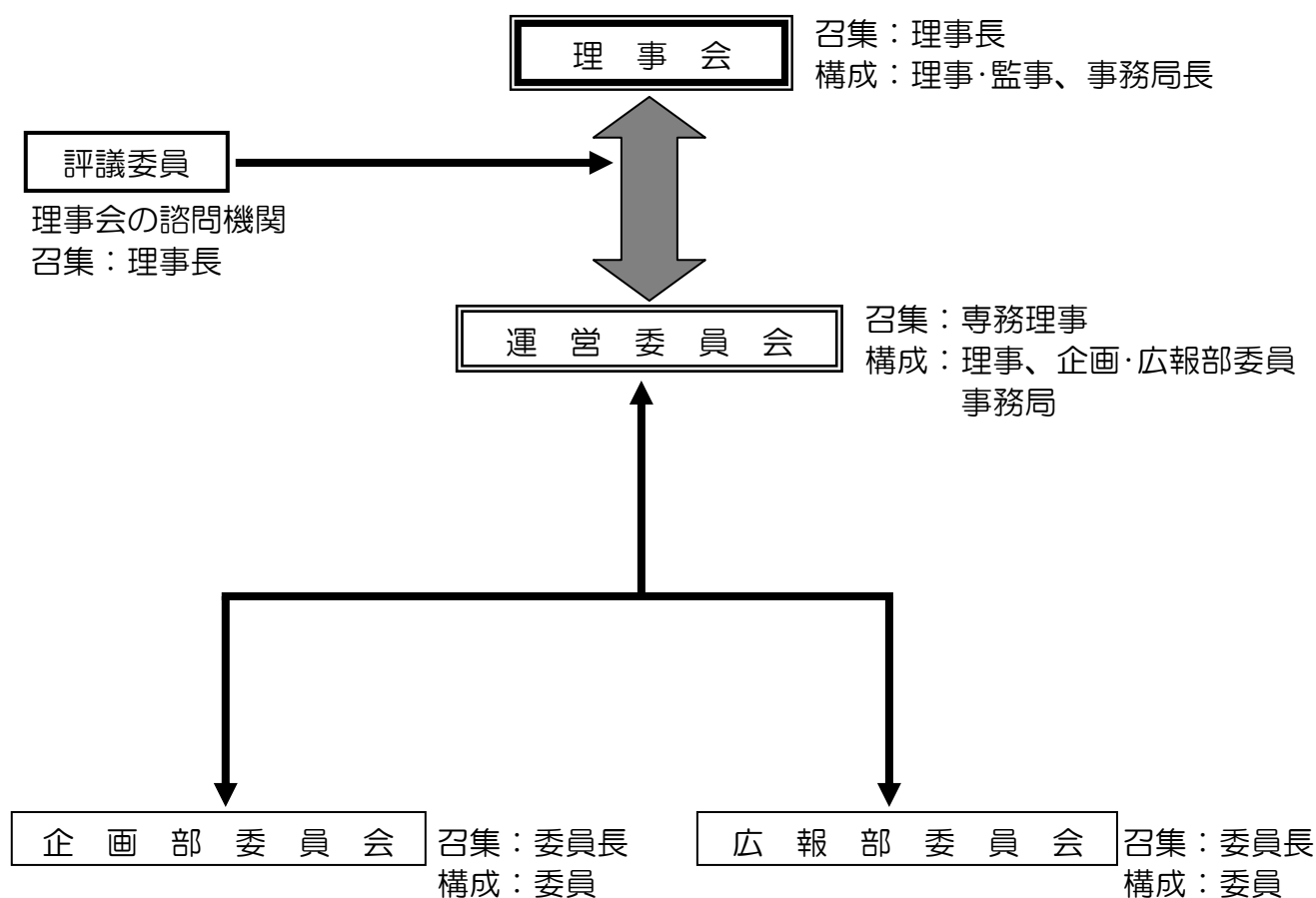
特定非営利活動法人
犬山市民活動支援センターの会
理事長 川 島 紀 之 殿

監事

監事

〔X〕犬山しみんていの会 運営体制

特定非営利活動法人
犬山市民活動支援センターの会



運営委員会は、オープンにしています。
理事以外の会員も自由に参加できます。

積極的に参加いただき建設的なご意見をお待ちしています。